

SVC048-07

会場:301B

時間:5月22日 11:15-11:30

霧島火山群における甕岳の火山活動について Activity of Koshikidake volcano in Kirishima volcanic complex

田島 靖久^{1*}, 小林 哲夫²

Yasuhisa Tajima^{1*}, Tetsuo Kobayashi²

¹ 日本工営株式会社, ² 鹿児島大学理学部地球環境科学科

¹Nippon Koei CO., LTD., ²Faculty of Science, Kagoshima University

霧島火山群では、20余りの火砕丘などが、西北西 - 東南東に 25 km、北北東 - 南南西に 15 km の範囲に分布している。アカホヤ火山灰より新しい活動については、井ノ上 (1988)、井村 (1992) などによって明らかにされているが、それ以前の活動については不確かなことが多く具体的な活動時期などを示す必要がある。一方、霧島火山群には、プリニー式噴火による火砕物の堆積により成長した山体や、溶岩流が度々流出し成長した山体がある。これらの活動性の違いについて明確な説明はなされておらず、その違いに関する手がかりを得る必要がある。我々は、その手始めとして甕岳の活動を明らかにし、上記について手がかりを得ることを試みた。既に報告したが、甕岳は火山砂とスコリアが互層するテフラ層序より 10 回程度の活動に分けられる。今回は初期の噴火によって焼かれた炭化物の年代測定を行い 19,000 cal yrs. BP の年代を得たことを報告する。次に、甕岳の一連の活動の中で、6 番目としたスコリア噴火が最大規模のテフラを噴出し、その時もしくはその直後に溶岩 (甕岳溶岩) が流出したことが明らかになった。また、甕岳溶岩は、テフラとの関係から今まで知られていたより広範囲に分布しており、その噴出量は 1 km³ を超える。その後、スコリア噴火とブルカノ式噴火を繰り返し、活動末期には上記スコリア噴火に匹敵する規模の火山砂を堆積させたブルカノ式噴火で活動を終えた。甕岳の活動に関する総噴出量は、霧島火山群 3 万年間の中では最大規模のものの一つである。井ノ上 (1988) に示された牛のすね火山灰下部層の堆積率を参考に甕岳の活動期間を推定した。

キーワード: 霧島火山, 甕岳, 活動史, 年代, 噴出量

Keywords: Kirishima volcano, Koshikidake, volcanic activity, age, volume of eruption